



ふくろうの郷

施設長だより

令和8年1月号

「1年」と「年度」

恥ずかしながら、社会人になるまで「年度」という言葉をきちんと理解していなかった私です。

義務教育も受けてきたはずなのですが… 3月で終わり、4月から始まるこの区切りを、「周りがそう動いているから」という感覚で受け止めていたのかもしれない（笑）。

さて、あらためまして本年もどうぞよろしくお願いいたします。

勝手ながら同封させていただいている「施設長だより」ですが、面会に来てくださったご家族の皆さまから温かいお声をいただき、励まされながら何とか続けております。いつもお気遣い、ありがとうございます。

皆さまは年末年始をどのように過ごされましたでしょうか。

私は厚岸にある母の家で年を越し、その後は妻とともに親戚の家を何軒か訪ねました。

かつてはとても元気だった叔父や叔母たちも、しっかりと年齢を重ね、持病を抱えていたり、「終活」のような話をする姿を目にすると、今さらながら「恩返し」をしていかなければ、と感じるようになりました。一方で、相手も私の立場を気遣ってくれて、連絡を控えている様子が伝わってくることもあり、かえって申し訳ない気持ちになることもあります。

これまで自分のために使ってきた時間を少しだけ見直し、今年は意識して親戚に顔を出す機会を増やしていこうと思っています。

どの仕事も、巡り巡って誰かの役に立っているものですが、私の仕事はその「誰か」を比較的近くに感じられる仕事です。だからこそ、自分を育ててくれた家族や親戚を大切にできなければ、その仕事の重みも薄れてしまうのではないかな。そんなことを考え、基本に立ち返ろうと思ったお正月でした。

ちなみに、昨年の年末から私のお腹まわりの成長が著しいため、その部分の成長だけは早急に止めたいと考えております。

本年も、どうぞよろしくお願いいたします。

米井